

問題 1

神田工場では2つの工程を経て製品Aを連続生産しており、累加法による工程別総合原価計算を採用している。生産実績は<資料>のとおりであるとし、仕掛品-第1工程と仕掛品-第2工程における①～⑩の金額を計算しなさい。

<資料>

	第 1 工 程	第 2 工 程
月 初 仕 掛 品	200kg (1/2)	300kg (1/3)
当 月 投 入	800kg	700kg
合 計	1,000kg	1,000kg
月 末 仕 掛 品	300kg (1/3)	200kg (1/2)
減 損	-	100kg
完 成 品	700kg	700kg
合 計	1,000kg	1,000kg

※ 原材料はすべて第 1 工程の始点で投入されている。

※ 第 2 工程の終点で減損が発生している。それは通常生じる程度のもの（正常減損）であり、減損費はすべて完成品に負担させる。

※ () 内の数値は加工費進捗度を表している。

※ 完成品と月末仕掛品への原価配分は、第 1 工程が平均法、第 2 工程が先入先出法によって計算している。

仕掛品-第1工程		(単位：千円)	
月初有高：		次工程振替高：	
原 料 費	50,000	原 料 費	(①)
加 工 費	62,500	加 工 費	(②)
当月製造費用：		月末有高：	
原 料 費	220,000	原 料 費	(③)
加 工 費	402,500	加 工 費	(④)
(各 自 計 算)			(⑤)

仕掛品-第2工程		(単位：千円)	
月初有高：		当月完成高：	
前 工 程 費	261,875	前 工 程 費	(⑥)
加 工 費	107,500	加 工 費	(⑦)
当月製造費用：		月末有高：	
前 工 程 費	(各自計算)	前 工 程 費	(⑧)
加 工 費	820,000	加 工 費	(⑨)
(⑩)			(⑩)

問題 2

明治製作所の生田工場では製造間接費について部門別個別原価計算を行っている。同工場では製造部門は組立部と仕上部から構成されており，補助部門には保全部を有している。製造間接費は稼働時間を基準として製造指図書に予定配賦されている。＜資料＞に基づいて，①～⑤の数値を計算しなさい。

＜資料＞

1. 稼働予定時間（予算操業度）は組立部が 10,000 時間，仕上部が 15,000 時間である。
2. 直接工の労務費は組立部で 10,000 千円，仕上部で 20,000 千円，保全部門で 10,000 千円と見込まれている。
3. 部門共通費（固定費のみ）の各部門への配賦は直接工の労務費を基準とする。
4. 補助部門費の配賦は直接配賦法により，稼働予定時間数を基準とする。
5. 予算操業度において予想される部門個別費および部門共通費は次の部門費計算表の通りである。

部門費計算表

（単位：千円）

	合計		組立部		仕上部		保全部	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門個別費	11,250	32,500	2,750	18,750	6,000	10,000	2,500	3,750
部門共通費	—	10,000	—	(?)	—	(?)	—	(?)
補助部門費	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)
配 賦 額	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)
合 計	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)	(?)		

※ (?) については各自計算のこと。

6. 両製造部門の予定配賦率は，固定費配賦率と変動費配賦率を別々に計算した後に合算して計算する。組立部における変動費配賦率が 0.375 千円/時間であるとき，仕上部における変動費配賦率は (①) 千円/時間と計算される。一方で，組立部の固定費配賦率は (②) 千円/時間，仕上部の固定費配賦率は (③) 千円/時間と計算される。したがって，組立部の予定配賦率は (④) 千円/時間，仕上部の予定配賦率は (⑤) 千円/時間と計算される。

問題 3

明治工業株式会社は、M、P の 2 種類の製品を生産・販売している。次の＜資料＞により、利益が最大となるセールズ・ミックスで製品①M の個数、②P の個数を計算し、③その理由を説明しなさい。

＜資料＞

(1) 販売価格と原価に関するデータ

	<u>製品 M</u>	<u>製品 P</u>
単位当り販売価格	800 円	700 円
単位当り変動費	400 円	400 円
固定費（年間）	300,000 円	

(2) 製品 1 個を製造するために必要な機械稼働時間および年間最大稼働時間

<u>製品 M</u>	<u>製品 P</u>	<u>最大稼働時間</u>
4 時間	2 時間	4,000 時間

(3) 年間最大販売（需要）数量

<u>製品 M</u>	<u>製品 P</u>
2,000個	1,500個

問題 4

以下の問題について解答しなさい。

- ① 投資計画の経済性計算における回収期間法と内部利益率法の意義, 特徴, 相違点について比較・検討しなさい。
- ② BSC (バランスト・スコアカード) の基礎概念である「プロセスの可視化」とは何か, 具体的に説明しなさい。

問題 5

次の用語について説明しなさい。

- ① 固定長期適合率
- ② マイルストーン管理
- ③ 長期変動費